

相談援助演習 I

専門教育科目 / 4 単位 / T 授業

担当教員 福崎 千鶴

■使用テキスト	福祉臨床シリーズ編集委員会(編)『社会福祉士シリーズ 21 相談援助演習 第 3 版』弘文堂 2018
◆参考テキスト	<ul style="list-style-type: none">・社会福祉養成講座編集委員会(編)『新版第 2 版 社会福祉養成講座 ⑯ 社会福祉援助技術演習』中央法規出版 2005・川村隆彦(著)『事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク』中央法規出版 2003・川村隆彦(著)『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規出版 2006・山田容(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習① 対人援助の基礎』ミネルヴァ書房 2003・山辺朗子(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習② 個人とのソーシャルワーク』ミネルヴァ書房 2007・岩間伸之(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習④ グループワーク』ミネルヴァ書房 2004・対人援助実践研究会 HEART (編)『77 のワークで学ぶ対人援助ワークブック』久美株式会社 2003・川村隆彦(著)『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 2002・社会福祉教育方法・教材開発研究会(編)『新社会福祉援助技術演習』中央法規 2001・久保紘章(著)『社会福祉援助技術演習(社会福祉士・介護福祉士養成講座)』相川書房 1996・米本秀仁(著)『社会福祉援助技術演習(社会福祉選書)』建帛社 2003・平野隆之・宮城孝・山口稔(編)『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣 2005・白澤政和・福山和女・石川久展(編)『社会福祉士相談援助演習』中央法規 2009・社会福祉士養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I 第 3 版』中央法規出版 2015・上野谷加代子監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会(編)『災害ソーシャルワーク』中央法規 2013・岩間伸之(著)『逐語で学ぶ 21 の技法—対人援助のための相談面接技術』中央法規 2008

講義概要・一般目標

社会福祉援助技術演習の目的は、相談援助などの理論と知識を具体的な援助場面で発揮されることです。本授業では、基本的な知識と技術について確認を行うとともに、社会福祉の様々な対象へのソーシャルワーク実践として、ロールプレイ、事例検討等を通して展開していきます。

テキスト課題では、スクーリング授業、社会福祉援助技術現場実習にスムーズに導入していくための知識や理論整理を行い、スクーリングにおいては、より実践に近い授業展開を実施します。

スクーリング授業出席に当たって、相談援助演習のテキストの通読や社会福祉六法等の通読も事前準備として実施しておいてください。

到達目標

- 1) 専門的なソーシャルワークの視点について理解する。
- 2) 問題解決の視点について考えることができる。
- 3) ソーシャルワーカーに必要なスキルを理解する。
- 4) 相談援助を行う上で、自己覚知、他者理解についての必要性を理解し、客観的に自己の傾向を知り、向き合うことができる。
- 5) 基本的な面接技法、記録技法、マッピング技法、評価技術を習得する。
- 6) ソーシャルワーカーが持つべき価値観と倫理が体得できる。
- 7) プレゼンテーション技法、ネゴシエーション技法、ディベート技法を理解する。

評価方法

科目単位認定試験（レポート）により評価。

学習指導

第序章 ソーシャルワークの実践とはどのようなことか

この章ポイント

高齢者や障がい者を含む当事者の自己実現や自立の道にも通ずる、社会の構成メンバーがともに生きる“共生”社会の構築が必要となっています。

ソーシャルワークの視点は、こういった状況を踏まえながら、一人ひとりの当事者の「今ここ」を大切にするとともに、将来への安寧につなげていく必要があります。

ソーシャルワーカーは、人間の生理的、心理的、社会的メカニズムの理解を深め、必要に応じて社会的な支援を中心に推し進める存在です。

そのために、様々な分野の現象の理解と知識を必要とします。

日常生活におけるソーシャルワークの視点について考え、特にマイクロメゾマクロの視点やシステム理論の発想を理解してもらいます。また、専門的なソーシャルワーク視点について考え、ソーシャルワークにおけるジェネリックとスペシフィックの関連性を理解してもらいます。そして、問題解決に向けてソーシャルワーカーに要求されるトレーニングの意義について理解してもらいます。

第1章 相談援助演習の意義

この章ポイント

近年、我が国では、ソーシャルワーク実践が必要とされる様々な問題が生じています。現代のソーシャルワーク実践は、幅広い領域、組織構造、クライアントシステムが対象となります。

したがって、ソーシャルワークにおける相談援助とは、個人、家族、集団、組織、コミュニティの理解を基本とし、人の生活空間における発達に向けた生物的、心理的、社会的、文化的要素の相互作用の理解とそれへの積極的な働きかけといえます。

ソーシャルワーク実践が必要とされる背景とソーシャルワーカーの養成教育や、ソーシャルワーカーに必要なスキルについて考え、具体的実践スキルを身に着けるための取り組みについて理解してもらいます。

第2章 相談援助の共通基盤

この章ポイント

臨床における援助場面では、様々なニーズのある利用者と様々なレベルで関わる中で、社会福祉の理論とともに、その技術を適切に活用することが求められます。

援助者は常に自分を冷静に客観的に見つめ、非審判的態度で利用者のありのままの姿を受け止めることが大切です。援助者の心理状態（感情、行動、思考）しだいで、利用者を理解するどころか、時には、傷つけてしまう恐れもあります。私たちは、相手をよく理解するために自分がどのような価値観をもっているのか気づくことが必要です。

相談援助を進める上で必要な自己覚知や自他理解、コミュニケーションを使った関係づくりができるように、プレゼンテーション技法、ネゴシエーション技法、ディベート技法を学び、コーディネーターとして意識が持てるようにします。面接技法、記録技法、マッピング技法、評価技法を習得し、より高い水準の相談援助を進められるようにします。そして、ソーシャルワーカーがもつべき価値観と倫理が体得できるようにします。